「軍都千葉市」初展示の取り組み

伊藤章夫（千葉市空襲と戦争を語る会）

私は、これまで千葉市空襲の調査に重点を置いて活動をしてきました。このたび、軍都千葉市を扱うことになりました。はじめから、千葉市空襲はあったが、軍都千葉市のイメージはありませんでした。千葉市の軍隊は千葉の師団が千葉市にないからです。しかし、鉄道聯隊などはあります。戦車学校などもあります。だから千葉市は軍人将校が威張って歩いていたと想像できます。会は茂原の新人宮崎博史さんのフレッシュな意見や行動力に依拠して取り組みました。宮崎さんは、軍都千葉市と千葉空襲の展示をした千葉市郷土博物館とコンタクトを取って著作権のことにも配慮して、そこから展示資料を決定していきました。市民の暮らしに視点を置くと、千葉市は道路が舗装されていない、自動車が走っていない、市民は下駄を履いているような写真を見つけると、近代的な生活基盤が不十分で生活物質が不足しており、戦争をするだけの国力不足を感じました。鉄道聯隊の資料を見ると、フランス製のルノー戦車やイギリス製の戦車が戦車学校に配備されており、それを鉄道聯隊が輸送訓練をしています。これで連合軍と戦争するのは日本政府や軍隊は物理的な裏付けがないのに、精神的な魂だけの戦争遂行体制であったと言えます。今回の展示は我々の視野を広げることに役立ちました。